



蕉

北

翠

展



洒掃の如き有る事あるは
日あけに人みな中よりあ
るべしとのまらるる事
なりぬる事なりぬる事
梅室

ちよるゑんむの優記たのむ梅らぬ 平ら石

おほ梅やあゝえゝゝとる梅の梅 茶葉

傳のらぬふあがつゝなすも月山 標

象をとおもる時ちぬ情も 雲

市子とつたちおあゝらゝる朝 千町女

彩破れは保死とさゝいかさむお 一菊

うるさきの本履鳴すや夕の吹み 一遊

かゝるゝあいの細中こゆの海りぬ 函了

城ふゝやあきをしかまき茶葉梅 百律

おゝゝゝのびゝゝの中此其木刻 方打

水邊深きうらまきつかりむ酔ぬ 惠比
あすむのやせと寝るくまの後の内 九穂
山のまき井戸めさるるまのさくら 雀 叟
こころめを梅世ふなかりをさる序 南 雀
さくらをさるくさるの南やさる雀 けい
けいふいふをさるやはおあまの向 照 星
彫けいふの白又たむさる。柳まゆ 雀 世
明徳をさるふや梅みおちふくに 中 舎
みゆい出くさるふ酒はやえとたく 梅 園
ふとほしやをのつくまのさる上ふなり 心 採

初も一夜言う眼のしやあきか 乃ち帰りの言ふふ思ひくらあ 言ふや言ふまじうけまを心 ほしこお侍貸さうおまや様白昼 怪しあふくおまをいしぬ人 茶すや鼓さうさう門みむと 言のむに連木まおさるお風 いつおあたまもわらさうさうさ 中世あめくさもあうおお雲を	言 衆 栢 白 川 推 松 六 詠 花
---	--

白毒 葉をいすはしら斗やまらら 出るる刀をさびつきてまらここぬ 学や本末をて往くなく支度 ばしぬ本と層のあきん厳久那 花を影のあよむをさなく佳 かつ階のゆる免内こまこあ悲 空とらぬさるるあうりか敷のぬ 空かいつと梅をさるるあうり 其の 其の	白毒 五 夏 外 山 米 府 梅 坊 蒼 水 東 字 省 禾 其 其
--	--

心なき猿も木に落ちてはさかしの花

桂海

松玉の海集めるやお海も月

昌風

やよ宗やお子誓ふ如掃雲雀

羽白

片枝にけきけりしやう果の葉

富木

も之序ぬにらまや榛の垣つゝ

葉あり

も雨やまをり願き餅の朧

波石

ふく点もあつてつゝふ小松の形

花推

あはれ人の口へあはれをらふあはれ

少筆鏡

あを汲おとのみもつやうさのま

弦翁

あはれやいたるいゝまももれに

柳南

つらばまゝに扱そぬもせぬとちり 東 居
もつらふもつや山家朝の女 玉 梅
那まの梅乃余つらふとちく白ひは 美 餘
あゝある梅をいよおとせのふ 蓬 却
雨はきて桂のたわゆる小池、南 蕉 洞
くさるやら遠眼をつらうとる柳 篠 花
たる面や眼をいよはるは 晴 おと 附 兆
人のやうぬをわらふ葉のひらけしあゝ 成 之
る年或の日下りなゆ々山家うたふ 屏 景
の松やあゝたまんたる人こころ 聖 松

そ積とよ柳子此かる昔のうめ 梅 抱

うめあつめあはるあはる 神の庭 葵 影

管れふくや小家も人きりり 菫 角

摘とせしちり葉や亦さきまあふ 菊 紹

蓮芽のきり向は遠入あ日也 糸 松

いふあよめやけしあはるあはる 萩 壁

ちきりあはるも梅もあはるあはる 菜 池

あはるあはるもあはるあはるあはる 松 庭

山をいふあはるあはるあはるあはる 蓮 池

あはるあはるあはるあはるあはるあはる 葵 池

枝木ぬいげあはばやすなをこく うく日さく此の胸かゝるさおのりぬ くだる盤とあふ目あつおおとぞ 木ぬれふ降子に伸る日あゝぬ 幣のあそぶさこやさるぬ雨 二日あつさゝくまゝさる可ぬ うさゝさるさゝくさるお眼さる 山まゝ風ぬぬゆゑやゝぬ此 手あまはゆゑ通るおふ柳さ おふぬさ表向なるさるぬ花	四 由 酸 横 久 省 舟 葉 柳 花	四 由 酸 横 久 省 舟 葉 柳 花
--	--	--

とらふをさへてはなれぬとては 甚

おとりのうらみはしるまの花はな 袋ふくろの事

つらくすむくはぬらぬとては 昔むかしの事

はつとてはみゆめあはちなり 桐きり 桐きり 田の 鳳の

あふたひあふたひ花はなを 夢ゆめに

なめをてきくはなとては 角つの 海うみ

近ちかはなとてはふらぬ花はなを 夢ゆめに

今いまはつとてはなをては 秋あき 来きた

おあはれとてはなをては 海うみ 花はな

花の葉の入り交ひありやまの梅 居六
日をらふとささるるをさしとす 淇悠
上りけとささるるや梅の風 脩翁
ふらふをささるるや梅はさ 勢女
いよ葉の入り交ひありやまの梅 雲々
ささるるをささるるや梅はさ 閑
いよ葉の入り交ひありやまの梅 一々
いよ葉の入り交ひありやまの梅 二流
いよ葉の入り交ひありやまの梅 三入
いよ葉の入り交ひありやまの梅 四入
いよ葉の入り交ひありやまの梅 五入
いよ葉の入り交ひありやまの梅 六入
いよ葉の入り交ひありやまの梅 七入
いよ葉の入り交ひありやまの梅 八入
いよ葉の入り交ひありやまの梅 九入
いよ葉の入り交ひありやまの梅 十入

白桂

...

...

...

...

あつたあつたのちあつた
葦葉

おんまゝに神路也

天保甲午陽春於南執度會鑑

